

市社協通信

発行・編集／社会福祉法人 広島市社会福祉協議会

〒730-0052 広島市中区千田町一丁目9-43 (広島市社会福祉センター内)

TEL 082-243-0051 FAX 082-243-0032

URL : <http://www.shakyo-hiroshima.jp/>

E-Mail : chiiki@shakyohiroshima-city.or.jp

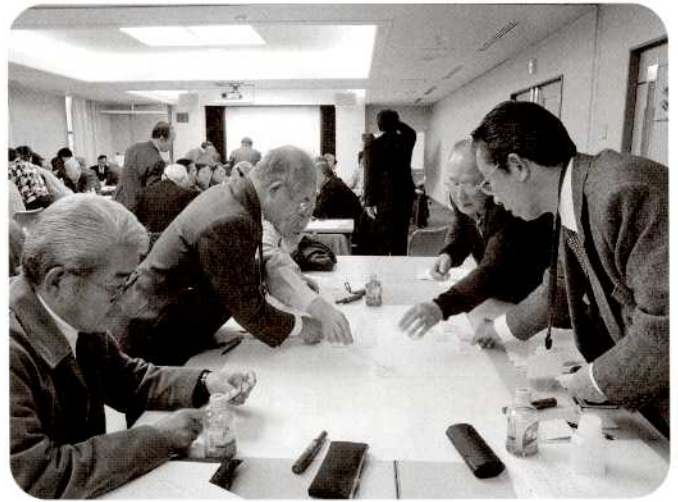
地区ボランティアバンク活動推進のため 地区社協役員等実践講座を開催



さすけあひ



ひろめろ



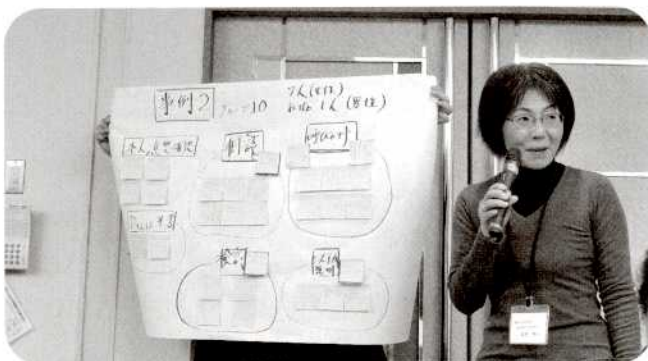
平成22年12月6日、8日の2日間、地区ボランティアバンク活動推進事業の理解促進、及びボランティアバンクのコーディネート力を向上させることを目的として、地区社協役員等実践講座を開催しました。

この実践講座のテーマとして「地区ボランティアバンク」を初めて取り上げたこともあり、事務局の予想を上回る参加申し込みが殺到。当日の会場は熱気であふれたものとなりました。

1日目は、上温品地区社協、三入地区社協及び東区社協ボランティアコーディネーターからの実践報告を中心に行い、区ボランティアセンターと地区ボランティアバンクの関係性や地域の先進事例について学びました。

2日目は、日本ボランティアコーディネーター協会の筒井のリ子氏を講師として招聘。コーディネーターの必要性や具体的なコーディネートの技法を学ぶことに併せ、参加者相互の情報交換を行うことにより、お互いの課題・悩みの共有化や、各地区が行っている工夫点等を学ぶことが出来、今後の取り組みの充実を考えるきっかけとなりました。

今後、地域住民の参加・支えあい活動として、地区ボランティアバンク活動の取り組みがますます広がっていくことを期待します。



参加者の発表の様子

各記事につけられた以下のマークは、その事業が本会「地域福祉推進第6次5か年計画」のどの基本目標に属するかを表しています。



さすけあひ



ささえろ



ひろめろ



ことえろ

地区社協のいま

「地区社協現況調査」

「地域福祉推進委員活動状況調査」

3年ごとに実施している調査から、今回は次のような地区社協像が見えてきました。

調査の概要			
●調査時期：平成22年7月29日～8月31日			
●調査方法：郵送調査			
◎地区社協現況調査		◎地域福祉推進委員調査	
[調査対象]	137地区	[調査対象]	137名
[回収数]	123地区	[回収数]	122名
[回収率]	89.8%	[回収率]	89.1%
◎前回調査（平成19年度）		◎前回調査（平成19年度）	
[調査対象]	134地区	[調査対象]	133名
[回収数]	118地区	[回収数]	120名
[回収率]	88.1%	[回収率]	90.2%

平成19年度調査との比較です。平均世帯数が減少してきていると同時に、町内会・自治会への加入世帯・加入率が減少しています。町内会加入率の低下は、地区社協会費及び共同募金の収入減につながり、地区社協独自の財源の確保にも影響が及びます。

標準的地区社協（平均数値）			
●平成22年度		●平成19年度	
世帯数	3,763世帯	世帯数	3,820世帯
最大	10,704世帯	最大	12,361世帯
最小	263世帯	最小	279世帯
町内会加入世帯	2,488世帯	町内会加入世帯	2,552世帯
町内会加入率	65.6%	町内会加入率	67.3%



「ふれあい・いきいきサロン設置推進事業」の取り組み
(複数回答による上位)

●成果

- ①サロンでのふれあいにより、参加者や運営スタッフに支え合いや助け合いの気持ちが生まれた
- ②サロンへの参加をきっかけに、参加者やスタッフの間に、日常的なつきあひが見られるようになった
- ③サロンへの参加をきっかけに、参加者に意欲の向上が見られた

●課題

- ①男性の参加者が少ない
- ②集まる人が限定されてしまっており、新規の参加者が見られない
- ③参加者とスタッフが、完全に受け手と担い手に分かれている

「近隣ミニネットワークづくり推進事業」の取り組み
(複数回答による上位)

●成果

- ①地区民児協と連携し、協力して見守り活動を推進できた
- ②近隣の人たちと見守りや援助を必要としている人との間に、日常的な面識ができた
- ③社会的に孤立している人について、ふれあい・いきいきサロン等の社会参加につなげることができた

●課題

- ①個人情報保護の関係から、関係者相互の情報の共有や連携が取りにくい
- ②日常的な近隣の見守りや援助を必要としている人の把握が難しい
- ③近隣の協力が得にくい

新・福祉のまちづくり総合推進事業を進めるうえで重要なこと

- ①地区社協活動の広報・PR活動
- ②活動者の確保
- ③財源の確保
- ④民児協など他団体との連携
- ⑤地区社協役員の研修



「地区ボランティアバンク活動推進事業」の取り組み
(複数回答による上位)

●成果

- ①地区ボランティアバンクの登録者を、「ふれあい・いきいきサロン」の運営活動につなげることができた
- ②役員や推進者に加えて、新たな活動者が増えた
- ③地域に社協の活動が理解・認知された

●課題

- ①個別援助の依頼が少ない
- ②登録者の高齢化が進んでおり、若い層の登録が少ない
- ③地域で効果的な広報ができていないため、ボランティアバンクの存在自体が地域住民にあまり知られていない

地区社協活動拠点の設置

(複数回答による上位)

●成果

- ①事務作業がスムーズに行えるようになった
- ②役員相互や団体間の連携や意思の疎通が深まった
- ③地域の人にとって車いすの借り受けがしやすくなった
- ④住民に対する福祉の情報発信機能が充実した

●課題

- ①常勤スタッフの確保
- ②地域住民にまだまだあまり知られていない
- ③社協自体の事務所確保だけで手一杯であり、地域の諸団体との共有は難しい

福祉のまちづくりプランの策定

(プラン策定が終了し、取り組み実施中の地区の回答から)

●成果

- ①課題の洗い出しと対応についての整理ができ、目標が明確化した
- ②地域に社協の活動が理解・認知された
- ③地域の諸団体との連携がよくなった

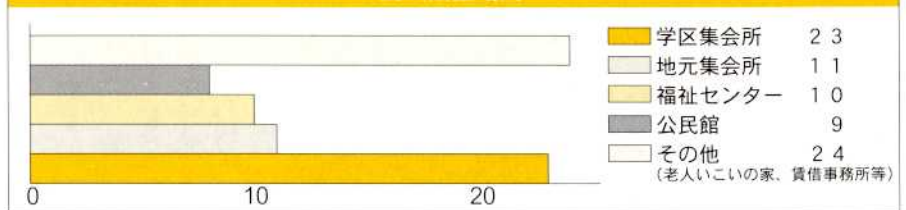
●課題

- ①どの課題から対応すれば良いのか判断が難しかった
- ②地域に潜在する課題を把握することが難しかった
- ③広く住民に広報し、意見を聴くことが難しかった



拠点設置場所

(回答77地区)



【地域福祉推進委員活動状況調査】

広島市域では、地区社協会長の推薦により区社協会長が委嘱する形で、平成元年度より地区社協に1名の地域福祉推進委員を設置しており、区社協ごとに連絡会議を開催しています。今回の調査から次のような地域福祉推進委員像が浮かび上がってきました。(比較は平成19年度です)

- 地域福祉推進委員の平均年齢は前回調査の66.5歳から若干ダウンの66歳。60歳未満の委員は20.3%で前回調査の18.9%より増加しています。
- 就任期間の平均は4年10カ月で、前回調査の4年6カ月から若干長くなっています。
- 地域福祉推進委員就任以前から地区社協のお世話をしている期間は平均10年11カ月で、前回調査の10年4カ月を上回っています。
- 地区社協や地区内の団体で何らかの役職を兼務している委員は87.7%で、前回調査の92.6%から若干減少しています。
- 日頃の中心的な活動は、「ふれあい・いきいきサロンやひとり暮らし高齢者の集いなど、交流の場づくり」が最も多く56.6%。次いで「福祉活動を推進するための各種団体との事業・活動調整」が40.2%。「地区民児協・担当民生委員等との福祉活動推進のための協議検討の場づくり」が27%でした。前回調査でもこれらの回答がトップ3を占めており、順位も同様でした。
- これから地区社協が取り組む必要性を感じている活動として、「次世代の福祉のまちづくりの推進者の発掘」が回答者の6割を占めています。地区社協の取り組みを新たな世代へ「つなぐ」必要性を感じているようです。

「福祉のまちづくりプラン策定をテーマとして広島市域地区社協会長・地域福祉推進委員合同研究協議会を開催」

平成23年2月16日、「福祉のまちづくりプラン策定」をテーマとして、地区社協会長・地域福祉推進委員合同研究協議会を開催しました。

当日は、プラン策定が完了しプランに基づく取り組みが始まっている井口台地区社協、大塚・伴南学区社協より実践報告を行っていただきました。

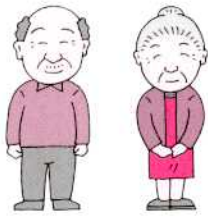
井口台地区社協は、地区社協のほぼ中心にある公園を地域の社会資源として活用し、まちづくりを進めていることについて、大塚・伴南学区社協は、新興住宅の設立により、新旧の団地が混在する中でプランの策定過程について、それぞれ報告をしていただき、プラン策定をきっかけとして地域が活性化していくことを学びました。

総括としてご講演いただいた県立広島大学の手島洋先生からは、「住民活動には、①自発性、②主体性、③継続性の3つの性格がある」等をお話しいただき、住民による地域福祉活動の必要性について学ぶことができました。

この研究協議会をきっかけとして、プラン策定やプランに基づく取り組みが広がり、ますます地域が活性化していくことを期待します。



会議の様子

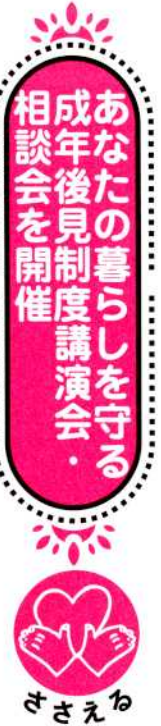


成年後見制度は、判断能力が不十分になった人たちの権利や財産を守る制度として年々利用が増えていきます。しかし同時に施行された介護保険制度に比べ成年後見制度は利用がすすんでいません。今年度は広島市からの委託を受け、12月から1月の間に市内4会場（東区、南区、西区、安佐北区）で成年後見制度に関する講演会と相談会を開催しました。

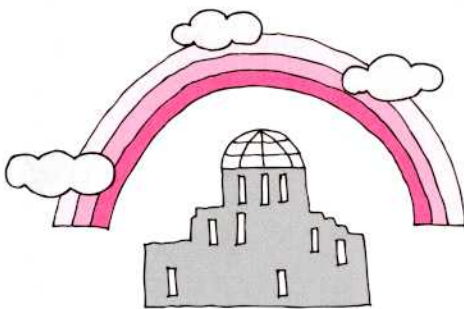
講演会では1会場75名程度の参加者があり、制度の内容や利用の仕方等について学習しました。中には「今回で2回目の受講ですがよくわかりました」「すぐにはすべて理解できない。何度かこうした話を聞いて理解したい」「気軽に相談できる場をもっと作ってほしい」などの感想がありました。

また、講演会の後の相談会では弁護士や司法書士、社会福祉士の専門家が、1会場8名程度の方からの相談を受けました。今後成年後見制度の普及に向けた講演会や相談会の開催を予定しています。

1月27日の講演会の様子
講師：清水佐智子司法書士



「地域福祉推進第6次5か年計画の中間見直し」



広島市社協地域福祉推進第6次5か年計画は、平成20年度から24年度の5か年を期間として、社協の活動を充実し、強化していくとともに、社協が取り組む活動の方向を市民に発信し、市民一人ひとり、みんなと一緒に「ささえあいのまち 広島」を実現していくために策定したものです。

広島市社協では、各事業の成果や課題、今後それを進める意義、数値目標の達成度の確認や見直しなど、「内容重視」と「更なる展開へのつながり」という二つの視点をもって、中間年を迎えた平成22年度にこの計画の見直しを行いました。

義援金募集のお知らせ

平成23年3月11日に発生した東日本大震災に見舞われ、甚大な被害を受けられた皆様に、心よりお見舞い申し上げますとともに、亡くなられた皆様に、心よりお悔やみ申し上げます。

中央共同募金会において、義援金の募集を開始しました。

義援金は中央共同募金会が受け付け、各県の被災者に配分されます。

ご協力をお願いいたします。

- ①りそな銀行 東京公務部(295)普通預金 0036576 社会福祉法人中央共同募金会
- ②三井住友銀行 東京公務部(096)普通預金 0155400 社会福祉法人中央共同募金会 災害口
- ③三菱東京UFJ銀行 本店(001)普通預金 0031265 社会福祉法人中央共同募金会
- ④ゆうちょ銀行 郵便振替口座 00170-6-518 中央共同募金会 東北関東大震災義援金

※同銀行の本支店間の送金については振込手数料はかかりません

「高齢社会とそれを取り巻く状況」

広島市社会福祉協議会 会長 古川 隆

日本の高齢化率は、すでに23%を超え、完全な「高齢社会」となっています。長寿化と少子化の背景を見てみましょう。

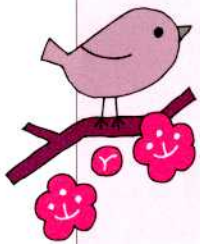
まず、「文明の発達」が浮かんできます。高度成長のもと、医療技術の進歩・健康志向（食べ物、運動、医薬品、サプリメントなど）住居関係の整備や改善、過酷な労働の排除などです。また、高張る塾の費用など子どもを育てにくい条件も数多く出てきました。

「高齢者」の問題を考えると、「家族」の問題はもちろん重要です。近年、「高齢者数」は圧倒的に多くなりましたが、家族構成では、昔の主流であった「三世同居世帯」は今では10%程度まで減少しています。反面、「高齢者の一人世帯」と「高齢者だけの二人世帯」、また、「子ども一人との同居世帯（経済的には親が面倒を見ている状況が大半）」は多くなっています。松山大学の春日キスヨ教授は「変わる家族と介護」（平成22年12月刊）の中で三世同居世帯の中には、相互に口も聞かない、もちろん食事もすべて別という存在を明らかにしています。

近親と離れて暮らすのはむしろ普通のことともなり、また、「近親同士の刑事事件」「高齢者の孤独死」なども、メディアは大きく取り上げています。

このように、昔ながらの「家族」は大きく変わってきています。それどころか、「今は家族に拘束されたくない。」、あるいは、「むしろ家族から抜け出したい。」という人達も出てきていますと言われています。（「家族をやめるといふ選択肢の広がり」・・・中央大学山田昌弘教授）こうした「家族」の変化はなかなか根深く、今更、「戦後の教育が悪い」「倫理教育の必要性」を唱えても始まりません。

一方、地域社会の絆は「希薄」になってきていると言われるようですが、地区社協を中心としての「集いや憩いの場所」は、昔とは比べものにならないほど広がりを見せています。介護保険で「高齢者問題」の社会化は始まりましたが、今、改めて、地域社会のみんなで地域を守ろうという気運は高まってきているように見えます。社協としては、この流れを上手くリードし、工夫していくことが望まれているでしょう。



今年も
たくさん
の

愛

が
届
き
ま
し
た



平成22年度の共同募金運動も、皆さま方のおかげをもちまして、9,411万4,411円（平成23年3月15日現在）の募金のご協力をいただきました。心より、厚くお礼申し上げます。

なお、お寄せいただきました募金は「高齢者や障害者のふれあい・いきいきサロンづくり」「一人暮らし高齢者への配食活動」「障害児のつどい」「地区ボランティアバンクづくり」などの事業に活用させていただきます。

地域福祉の向上のため、今後とも共同募金運動へのご支援・ご協力をお願い申し上げます。

平成22年度
共同募金へのご協力
ありがとうございました



じぶんの町を
良くするしくみ

赤い羽根
共同募金

お問い合わせ先

☎243-0051

FAX243-0032

広島市共同募金会

〒730-0052


中区千田町1-9-43

広島市社会福祉センター内


社協議会事業計画・予算

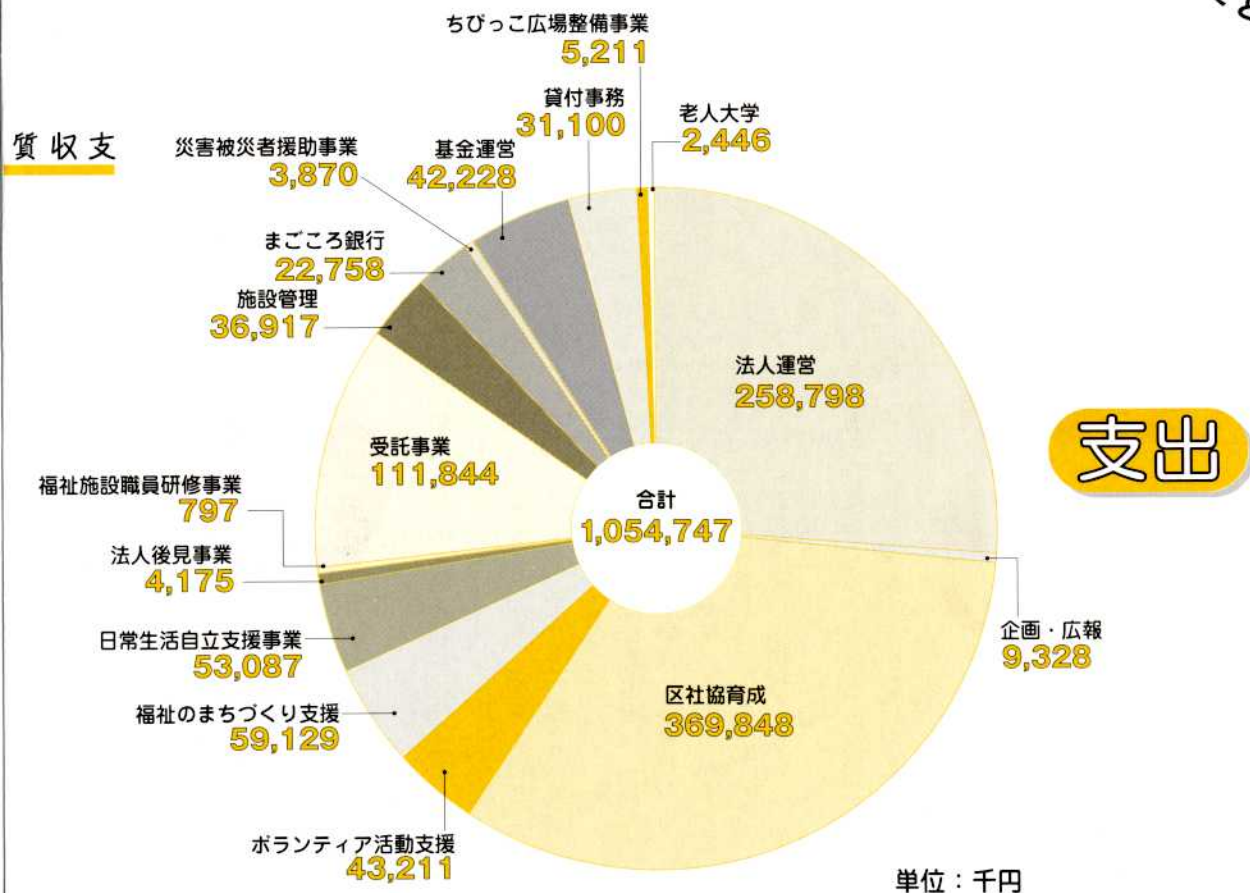
次にあたり、引き続き重点事業へ位置づけ、「たすけあう」「ささえる」「ひろめる」「ととのえる」をキーワードとして、を実施し、その内容を反映させることで、小地域における活動を原点に、住民一人ひとりの参加・参画を得ながら、「行政み」をつくるための事業・活動の推進に努めます。

基本目標3:「ささえあいの輪をひろげる」

主な事業内容	主な支出予算
①広島市ボランティア情報センターの活動推進（ボランティア活動支援） ア：さまざまな課題に取り組むボランティアの育成に努め、地域における「支えあい活動」を広げる イ：市民への福祉情報の提供	ボランティア活動支援、福祉施設職員研修事業、受託事業、法人運営 など  ひろめる
②福祉教育の推進（ボランティア活動支援） ア：「やさしさ発見プログラム事業」の実施 イ：関係者との連携協力による効果的な学習プログラムの開発	
③さまざまな機関・団体とのネットワークづくりの推進（ボランティア活動支援） 幅広い分野のボランティア活動希望者の支援体制づくりや、多様な福祉ニーズ、福祉課題の解決に向けた関係機関とのネットワークづくりを進めていく	
④研修・学習の場づくり（法人運営、福祉施設職員研修事業、受託事業）	

基本目標4:「活動をささえる仕組みを整える」

主な事業内容	主な支出予算
①活動財源の確保（企画・広報、まごころ銀行、基金運営など） 賛助会員の募集拡大と、共同募金運動への取り組み強化、地域福祉活動推進基金・ボランティア活動推進基金の募集拡大	企画・広報、まごころ銀行、基金運営、法人運営、施設管理、受託事業、福祉のまちづくり支援 など  ととのえる
②地域福祉推進拠点整備の取り組み（法人運営、福祉のまちづくり支援） 市総合福祉センター（仮称）整備に向けての取り組み	
③指定管理者制度への対応（施設管理）	




平成23年度 広島市社会福祉協議会

平成23年度広島市社会福祉協議会の事業計画では、平成20年度から進めている「地域福祉推進第6次5か年計画」の4つの基本目標を立てています。


平成22年度には、計画の到達点を検証するとともに、情勢の変化などによる新たな課題に対応するための「中間見直し」や福祉施設、関係機関・団体との連携・協働のもと、「ささえあいのまち 広島」をめざして、「地域でささえあう仕組

【事業計画】

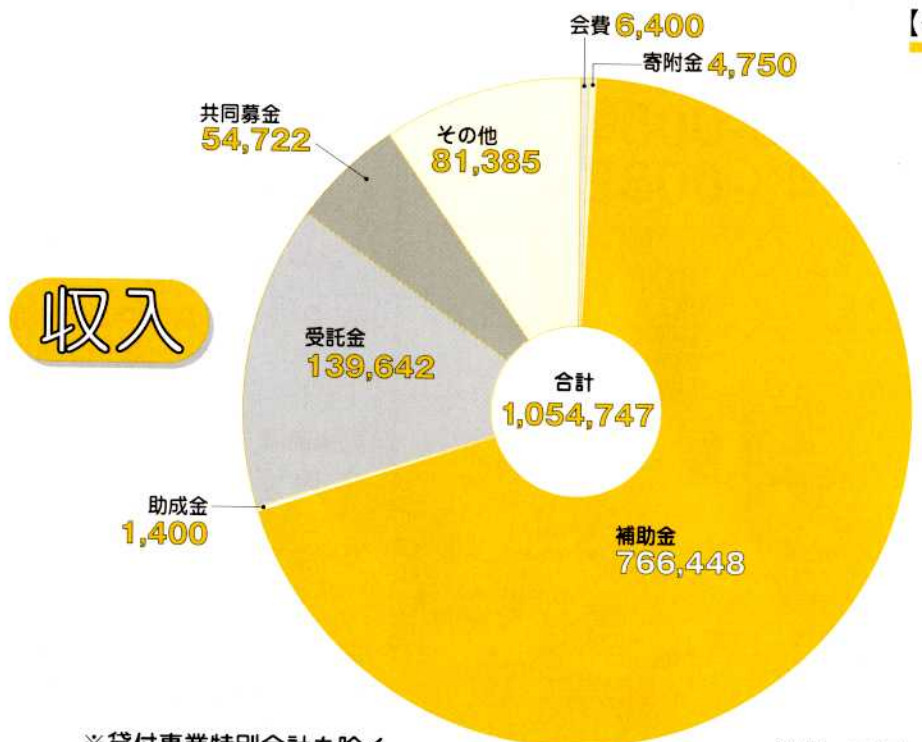
基本目標1：「安全・安心・こころ豊かに暮らせる地域づくり」

主な事業内容	主な支出予算
①地区社協の福祉推進機能の強化 (区社協育成、福祉のまちづくり支援、基金運営) ア：新・福祉のまちづくり総合推進事業の推進 イ：福祉のまちづくりプランの策定支援 ウ：地区社協活動推進拠点の整備支援	区社協育成、福祉のまちづくり支援、老人大学、ちびっこ広場整備、基金運営、法人運営など 
②施設との協働によるまちづくり (区社協育成、福祉のまちづくり支援、法人運営) 福祉施設のもつ拠点性や専門性とのつながりを深め、小地域における福祉活動を推進する	
③高齢の人や障害のある人たちの活動支援 (区社協育成、福祉のまちづくり支援、老人大学、基金運営) ア：当事者・家族の主体的活動の支援 イ：地域の各種行事・活動への参加支援	

基本目標2：「一人ひとりの暮らしをささえる」

主な事業内容	主な支出予算
①福祉サービス利用援助事業「かけはし」の推進 (日常生活自立支援事業、心配ごと相談事業、福祉のまちづくり支援) トータルコーディネーター（総合相談員）の全区配置による相談支援体制の充実を図る	日常生活自立支援事業、法人後見事業、心配ごと相談事業、受託事業、貸付事務、福祉のまちづくり支援 など 
②法人後見の実施（法人後見事業） 判断能力が不十分になった「かけはし」事業利用者の継続支援に取り組むため、法人後見実施に向けた体制づくりをすすめる。	
③在宅福祉サービスの充実（受託事業） 広島市障害者（児）社会参加支援ガイドヘルパー派遣事業の受託	

【予算】実



まごころ銀行への ご協力ありがとうございました

本会主催の銀行に、次の皆さまから舞いこぎの寄付をいただきました。深くお礼申し上げます。
(平成22年9月7日～平成23年3月15日・敬称略)

●一般寄付預託者

広島市老人大学実行委員会、林 俊之、
1/4の奇跡上映の会広島、第2回チャリティ
イ&フアンの集い広島東洋カープ選手、老大
O日ランドゴルフ同好会、宗教法人真如苑
古川 隆、NPO法人広島鯉城漁漁会、品川
映子 他2件

●香典返し・祝い返し・見舞い返し預託者

安部 真、梶本泰利、
他1件

●物品預託者

「車椅子」
「車椅子」
「ハンドメガホン、CDラジカセ」
広島市老人大学OB会

皆さまからお寄せいただいた香典は、高齢者・
児童・障害者福祉と明るく地域社会を築く
ために活用させていただきます。



まごころ銀行では、香典返しな
どの贈り物に、チャリティパ
ザーやコンサートの収益金など
需要の種別(寄付金)をお受け
しています。
お問い合わせ・ご相談は
広島市社会福祉協議会
TEL 243-0051
FAX 243-0032

賛助会員へのご協力 ありがとうございました

次の方々から賛助会費のお申し込みをいただきました。
(平成22年9月7日～平成23年
3月15日・敬称略 順不同)

法人 3社 70口
現在まで 66法人 121口

ぎおん浄庵(有償株式会社)

広島医療生活協同組合

株式会社広島銀行

個人 64人 124口
現在まで 950人 1,809口

ご協力いただきました皆さま、ありが
とうございました。これからも、地域福
祉を推進する本会をご理解いただき、さ
まざまな地域活動に積極的に参加してい
ただくとともに、新年度におきましても
引き続き、賛助会員としてご支援・ご協
力をぜひお願いいたします。



社会福祉法人 広島市社会福祉協議会

〒730-0052 中区千田町1-9-43
広島市社会福祉センター内

TEL 243-0051
FAX 243-0032

URL <http://www.shakyo-hiroshima.jp/>



広島市社会福祉センターの 会議室やホールをご利用ください。

社会福祉センターは、市民の生活文化の向上と社会福祉の増進を図るために設置された施設です。

このセンターには、ちょっとした会議やミーティングなどに利用できる大小の会議室や講演会などが開催できる最大定員350名のホールなどがあります。

皆様のご利用をお待ちしております。

所在地：広島市中区千田町1-9-43
(中消防署の正面向い)

TEL (082) 243-0051 FAX (082) 243-0032

利用時間：午前9時から午後9時まで

休館日：毎月第3日曜日・8月6日・年末年始
(12月29日～翌年1月3日)

受付時間：平日の午前8時30分から午後5時15分まで
(土・日曜日、祝日、休館日は除きます。)

▼▼本会ホームページ内に詳しく紹介しています。▼▼
<http://www.shakyo-hiroshima.jp/riyo/index.html#sub1>